診療プロセスデータに基づく ICT を用いた医師を中心とした医療者の業務負担軽減手法に関する研究

医師を中心とした医療者の業務・削減/負担軽減（Reducing Clinician Burden）を目的としたタスク・シフト/シェアが社会課題となっています。
本研究では、医師業務負担軽減のあるべき姿を広い視野から考察すると同時に、診療プロセスデータとしての標準型クリニカルパスシステム（ePath）と、ICT（医師行動識別アプリや問診支援システムなど）を用いて、データに基づいた医師の業務負担軽減の実証を行っています。データ解析の結果で業務削減、他職種へのタスクシフト/シェア、あるいは ICT への置換を ePath 改定で実施する Learning Health System（LHS）の実証試験を行い、医師の業務負担軽減全体の医療への影響、つまり医療の質や安全性に関しての影響や、他職種の業務への影響（看護師の業務量、検査技師の病棟業務の拡大）について検証しています。ePath は、日本医療情報学会標準規格へ認定され、保健医療福祉情報システム工業会により ePath 実装ガイドが策定されました。標準的な業務改善手法としての普及が期待されます。

